

■深圳のバイオレット・スーが教えてくれた Maker ムーブメントの本質（後編）【連載:高須正和】

チームラボ高須のアジアンハッカー列伝

■深圳の Maker のエコシステム

前回に引き続き、バイオレット・スー (Violet Su) の紹介をしたいと思います[前回記事にリンク]。バイオレットの Seeed への入社面接は、エリックの作ったオシャレな柴火(Chaihuo)ハッカースペースで行われました。彼女は一発で Seeed を気に入ったようで、「電子回路と Maker の企業が、クリエイティブ・デザインの豊かな所にハッカースペースを創るなんて、良いと思わない？」と、うれしそうに当時の思い出を語ります。

日本で、ボランティアで日本語教師をやっていたような 20 代後半の女性が Maker 企業に入るのはなかなか珍しいキャリアパスなんじゃないかとおもいます。深圳（しんせん）はハッカースペースが出会いの場としてうまく機能しています。

（ハッカースペースがどういうモノか知りたい人は『世界ハッカースペースガイド』という連載を CodeZine ではじめたので、そちらも[記事にリンク]ご覧ください）



[ハッカースペース]

]ハッカースペースがある一角、こういう雰囲気の中にあります。

[ハッカースペースロビー]



バイオレットが面接をしたハッカースペース

[フリマ]



休日は、フリーマーケットやデザインフェスタのように、一品モノの作品を売りに来る人で賑わいます。

[フリマ出展者]



いかにも日本のデザフェスとか、中央線沿いに住んでいそうな出展者

[不自然便利店]



ワザとレトロ調でダサそう、キッチュに作ってある「不自然便利店」。ハッカースペースの隣にあります。

ツアー後に1日、プログラムを延長して、深圳のハッカースペースを訪問しました。ハッカースペースは表参道や中目黒のようなハイセンスに、もっと「そこにいる人が作ってるにおいがする」要素を足したようなすてきな一角にあるのですが、深圳に残った4人ぐらいでそこを歩き回ったときのバイオレットは、ツアーでみんなに呼びかけをするバイオレットとは別のリラックスした感じでした。冒頭の写真はリラックスしたバイオレットです。もう1カ所、テックスペースを訪問する予定が、ミスブッキングで叶わなかったのですが、「代わりにこの綺麗な場所でご飯をたべましょう」というアイデアに全員が賛成しました。

この日は土曜日でしたが、彼女は仕事を片付けに楽しそうに Seeed に帰っていました。

■仕事しててどう？ 楽しい？

僕はあまり新聞を読みません。ニュースっぽいことは、友達のタイムラインやはてなブックマークや 2ch のまとめサイトから知ることが多いです。中国や韓国には良いイメージを持っていませんでした。ただ、SeeedStudio ほか深圳の Maker たちは、13 億の民のなかに、僕らの友達になれる人がいっぱいいることを教えてくれました。粗悪なデッドコピー品でなくて、ハッカーマインドを持って胸を張れる製品を作り、世界を変えようとしている人たちがいることを教えてくれました。

「Maker は、楽しんで夢中になって Make をしていけば、それが仕事になるし、世界を変えられる」と彼らは語り、また実践しています。

「仕事しててどう？楽しい？」という質問に、彼女は「Seeedはいつも元気いっぱい、楽しさと喜びに溢れている。世界中のMakerから毎日、いろんなことを学べる。この会社で働いていて、最高に楽しい！」

と答えました。「世界、特にアメリカや欧米に向けて、自分の会社の製品を売ってくれ」という仕事なら、彼女の方が僕の3倍ぐらい優秀なんじゃないかと思います。きっちり英語ができるし、機転が利くし、何より仕事を楽しんでいます。今回のツアーは、Seeedstudioが単独で行った前回よりも、いろいろ相談したことでのクオリティが上がりましたが、彼女たちはこれを「Shenzhen High tour」として、もうSeeedのサービスの一つとしてビジネスにしようとしています。このスピード感、なるほど「Seeedは元気いっぱい」です。僕も元気には自信があったのですが

。

仕事を楽しめるには、環境と才能の両方が必要です。とにかくなんでもGO!GO!がでて、トライアル&エラーがしやすい、深圳の環境や雰囲気は、彼女たち深圳のMakerにとってエキサイティングなのでしょう。新しいことを歓迎して、少し不具合があっても気にしない。Kickstarterの出荷遅れを「問題」にするメディア報道が目立ちますが、たぶん深圳の人たちの方が「Kickstarterがどういうものか」がわかっていると思います。

僕は、彼女の給料はわかりませんが、なんなくだけ僕の半分か、三分の一ぐらいなんじゃないかと思います。仮に三分の一だとすると、たとえばアメリカ相手に商売しようと思うと、彼女の方が10倍ぐらいバリューがあるんだと思います。日本語やプレゼンなら、たぶん僕のほうが上手だと思いますが。僕は今シンガポールに住む前に、インドネシアにしばらくいたり、インド人のエンジニアで何人か友達がいたりしますが、同じぐらいのコストパフォーマンスの人は見ませんでした。あんまりマジメに仕事しなさそうだったり、もっとエリートだったり。

今回のツアーメンバーには経営者も多かったのですが、「自分が起業するならまずバイオレットみたいな人に、協力してみないか相談するわ」と口々に言っていました。

インターネットは否応なしに世界を繋げていきます。僕とバイトレットやエリックは同じ世界の人間で友達です。だから、どうやるとこれから先も、彼らと一緒に遊べるか、考えたりもしました。どういうのが、僕のバリューなのかなあ、とか。もう少し英語が上手になつたら、バイオレットにそういう相談もしてみたいです。

[necomimi]



最終日、僕は自分のついている Necomimi をバイオレットにプレゼントしました。「これは自分も楽しいし、普通に仕事なんだから」と何度も固持していましたが、最後には受け取ってくれました。11月の MakerFaire 東京、Seeed のブースには、たぶんチームラボステッカーをつけたバイオレットがいます。

Seeedに入社してから彼女は、週末ごとに Maker 達とワークショップを行ってます。「休日は TV を見るぐらいしかしないから、面白い Maker 達とたくさんワークショップやって知り合うのはすごく楽しい」と語ります。

「日本の Maker に何かメッセージを」と聞くと、
Enjoy Making;
と帰ってきました。

「そういえば子供の頃、私のお父さんは子どもたちに、銅線でブレスレットを作ってくれた。Make ってそういうことだと思わない？」

彼女は Maker ムーブメントが何なのかを知っています。

